

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立安積第三小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	郡山市立安積第三小学校 5年(63名) 6年(67名)
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名( 体 育 科 )</p> <p>② 行事名( )</p> <p>③ その他( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名( )</p> <p>② その他( )</p>
4 目 標 (ねらい)	一人一人のよさを生かして自分や友だちの課題を見つけ、友だちとのかかわりを通してバレーボール(スポーツ)の楽しさを見つける。
5 取組内容	<p>○オリンピックとの交流活動を通して運動・スポーツの楽しさを体験</p> <p>・日時 令和元年11月29日(金) 5年(1・2校時)、6年(3・4校時)</p> <p>・講師 デンソーエアーリービーズGM 山口祐之氏 他1名 (元全日本女子バレーボールコーチ)</p> <p>・内容 5・6年生とも体育科授業 「ネット型ゲーム(ソフトバレーボール)」</p>





技術だけでなく、スライドを用いながらのチームワークの大切さについての講義



# ・事前のデンソーエアリービーズ GM 山口さんと児童とのメールによる交流

安積第3小学校の生徒の皆さんへ

こんにちは、デンソーエアリービーズの山口です。  
皆さんの授業での取り組みを先生方からメールを通じてお聞きしています。  
皆さんが真剣にソフトバレーボールに取り組みでくれている姿が伝わってきて、私もとても嬉しく思っています。  
今回は、皆さんから届いた質問にお答えし、私が学校にお邪魔するときの試合までに少しでも役に立てていただけたらと思います。

では、まずはじめに、皆さんからの質問にあった、技術的なことを「全学年共通」としてお答えしていきたいと思います。

## 「オーバーパス」

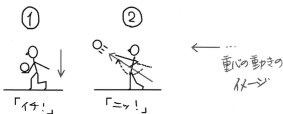
両手をおでこの前あたりで広げ、10本の指でボールを包み込むようにする。強くはじきかえすというよりも、指、手首、肘を上手に使いバウンドさせるようイメージでパスをする。

## 「アンダーパス」

両手を組んで肘を伸ばして、手首より少し肘よりの部分でボールをヒットする。ただ、ボールに触れる面積が小さいほどボールコントロールが難しくなるので、手を組まず両手を広げた状態でパスをしてもよしとする。

## 「サーブ」

①サーブを打たない方の手でボールを持ち、打つ方の腕を後ろに引きながら重心を下げる感じで沈み込む。かけ声「イチ！」  
②打つ方の腕を下から回しながら振り始めると同時に、下げた重心を斜め前方に移動させる。ボールをヒットした腕は振り回すのではなく、ボールの後をついていくように押し出していく。かけ声「ニッ！」  
※カブくでボールを飛ばそうとして打っても、コントロールが効かなくなってしまうので、体のリズムと適度な力とタイミングで打てるように心がける。



続いて、学年ごとの質問についてお答えしていきます。

## 「6年生男子」

チームメンバーの技術レベルには必ず差があると思います。その差をお互いが一生懸命協力しあいボールをつないでいくのがバレーボールの面白さの一つでもあります。協力を言い換えると「カバーしあう」とも言えると思います。ボールを扱う人は責任を持ってボールを扱う。周りの人は責任を持ってカバーする。この繰り返しでバレーボールは成り立ちます。  
レシーブの技術的な話は「全学年共通」でのアンダーパスと同じような感じでしてみましょう。味方に優しく渡すイメージで。

## 「6年生女子」

サーブにしても、バレーボールにしても、リズムが大切になってきます。「全学年共通」のサーブにもあるように、リズムを刻みながら練習していきましょう。結果（入ったか、入らなかったか）を良くするためには、過程（打つまでのリズム、体の動かし方など）を特に意識して取り組んでみましょう。

## 「5年生女子」

まず、上手につながっているチームはどんな工夫をしているかを見てみましょう（ここでは、技術の「上手」、「下手」は抜きにして見てみます）。  
ボールをつなぐためには、個人個人で技術を頑張ることも大切ですが、チームで声を掛け合うことで、ボールを落とさずにつなげることもできます。ボールを受ける人の声（オッケー！、はい！など）、次にボールを受け取る人の声（こっち！など）、それ以外の人の声（おねがい！、〇〇（名前）！など）です。声を出すことははじめは抵抗があるかもしれませんが、言葉が通っても間違ってもいいので、発生することにトライしてみましょう。

## 「5年生男子・女子」

まずは、「全学年共通」のアンダーパスを参考にしてみてください。  
この技術を高めながら、チーム全員で助け合い、協力しながらボールをつなげられるように頑張ってみましょう。

質問に対する答えは以上となります。

# ・授業後の給食交流会



## 6 主な成果

○昨年度に引き続いての取組であったため、オリンピックのみならず、スポーツに対する児童の興味・関心が持続した中で行うことができた。

○高い技術を持つオリンピックから、その技術だけでなく、スポーツを楽しんだり、仲間を大切にしたりする心を直接お話していただくことができた。

## 7 実践において工夫した点（事業の特色）

○招聘する講師を、地元郡山をホームとするデンソーエアリービーズに依頼し、事業が終わった後も、児童が継続してバレーボールやスポーツへ興味を持てるようにした。

○技術の習得、よりラリーが続くようにするポイントなど、児童が実際に学習を進めるうえで生じた質問などを、メールを通して直接お伺いする機会を持ったこと。

8 主な課題等	<p>○今回は5・6生だけの体験なってしまったが、全校性が参加・体験するためには、講師の方々と日程等とうまく調整する必要がある。</p> <p>○今後も児童たちにスポーツを愛する心、スポーツに親しむ態度を育成していくためにも、持続可能な学校独自のオリンピック・パラリンピック教育を検討していく必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○いよいよ開催年となるため、児童同士でも、よりオリンピック・パラリンピックの気運が盛り上がっていくような環境整備と、体験等の機会を設け、これまでの事業の成果を得られるようにしていく。</p>